

～春立つ森 冬芽とシダにも お近づき～

フユノハナワラビ



相生山の四季を歩く会#98 2018.2.11

冬芽・葉痕	私のお気に入り!	コンテスト	2018.1.14投票集計	投票者24人/参加者44人
1 ギイフリボク	采振木	ハラ	13	
2 ネジキ	振木	ツツジ	7	
3 アオギリ	青桐	アオギリ	6	
4 ウスノキ	臼の木	ツツジ	5	
4 ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	5	
4 リョウブ	令法	リョウブ	5	
7 コナラ	小櫨	ブナ	4	
7 ヌルデ	白膠木	ウルシ	4	
9 タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	3	
9 ヒメユズリハ	姫杠葉	ユズリハ	3	
9 ヤマウルシ・ヤマハゼ	山漆(山檀)	ウルシ	3	
12 センダン	栴檀	センダン	2	
12 タブノキ	楠の木	クスノキ	2	
12 ニセアカシア(=ハリエンジュ)	偽アカシア(針槐)	マメ	2	
15 クサギ	臭木	シロ	1	
15 コバノガマズミ	小葉莢蒾	レンブクウ	1	
投票総数			66	



コバノガマズミ

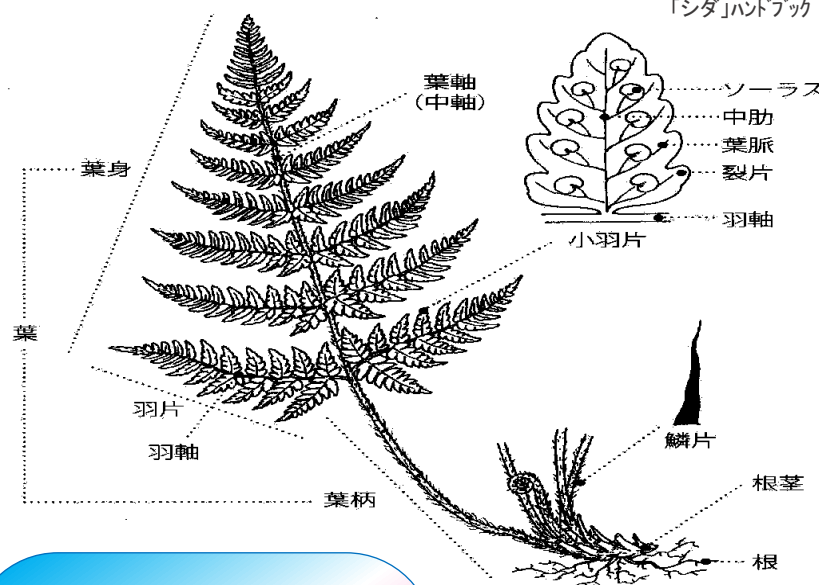
相生山緑地北部のシダたち (ニコース順)					
No	標準和名	漢字表記	科	葉の形	主な特徴
1	ベニシダ	紅羊歯	オンダ	2回羽状	中型,新芽・若葉のソーラスが紅い,紙質
2	イノデ	猪手	オンダ	2回羽状	茶色鱗片・葉柄・中軸に毛密生
3	トラノオシダ	虎尾羊歯	チャセンダ	1~2回羽状	小型,乾燥に強い,中軸に溝
4	イノモトソウ	井の許草	イノモソウ	1~2回羽状	翼あり,鋸歯ナシ
5	ヤブソテツ	藪蘇鉄	オンダ	1回羽状	羽片10~30,細長
6	フユノハナワラビ	冬の花蕨	ハナヤスリ	3回以上羽状	葉の上の分枝として胞子葉,園芸
7	オクマワラビ	雄熊蕨	オンダ	2回羽状	黒褐色の鱗片,中型,ソーラス上半分
8	ワラビ	蕨	コバノシカガマ	2~3回羽状	大型無毛,食用
9	コシダ	小羊歯	ウラジロ	二股	羽片付け根から次々新芽
10	ウラジロ	裏白	ウラジロ	二股	同上=子孫繁栄→注連飾り
11	ノキシノブ	軒忍	ウラボシ	単葉	茅葺屋根,乾燥に耐え忍ぶ

春立つ2月の冬芽・葉痕 (ニコース順)

No	標準和名	漢字表記	科	観察ポイント	メモ
1	ヌルデ	白膠木	ウルシ	冬芽・葉痕	鱗芽:猫の手
2	クスノキ	樟	クスノキ	*常緑	葉柄:赤
3	イボタノキ	水蠟樹	モクセイ	*半落葉	鱗芽・有用木
4	アオギリ	青桐	アオギリ	冬芽・葉痕	<逸出>鱗芽・托葉痕
5	ニセアカシア(=針槐)	マメ	冬芽・葉痕	<逸出>隠芽・棘:悪魔の顔	
6	コナラ	小櫨	ブナ	冬芽	鱗芽・頂生側芽多い
7	ムラサキシキブ	紫式部	シロ	冬芽・葉痕	裸芽・痕:押しボタン
8	アラカシ	粗榲	ブナ	*常緑・冬芽	鱗芽
9	センダン	栴檀	センダン	果実・葉痕	<逸出>鱗芽・痕:倒松型
10	アオハダ	青肌	モチノキ	冬芽・葉痕	鱗芽・痕:浅いU字
11	カマツカ	鎌柄	ハラ	冬芽	鱗芽・痕:側面赤色
12	ヤマコウバシ	山香ばし	クスノキ	冬芽	残る枯れ葉・鱗芽・大きい芽は混芽
13	コバノガマズミ	小葉莢蒾	レンブクウ	冬芽	鱗芽
14	ヤマウルシ	山漆	ウルシ	冬芽・葉痕	裸芽 ⇔ ヤマハゼ毛深い、ハゼノキは鱗芽
15	クサギ	臭木	シロ	冬芽・葉痕	裸芽・痕:U字に並ぶ
16	タカノツメ	鷹の爪	ウコギ	冬芽	鱗芽・維管束痕7個⇔コシアブラ:13個
17	ヒサカキ	姫榊	サカキ	*常緑・花芽	⇔サカキ 冬芽:鉤型に曲がる
18	アカメガシワ	赤芽柏	トウダイグサ	冬芽	裸芽
19	ヤマザクラ	山桜	ハラ	冬芽	鱗芽・先がほどける
20	シイ	椎	ブナ	*常緑・冬芽	鱗芽
21	ネジキ	捻木	ツツジ	冬芽	鱗芽・塗り箸
22	ヒメユズリハ	姫杠(讓)葉	ユズリハ	*常緑・果実	葉裏:緑色・海岸性 ⇔ユズリハ:山地性
23	タブノキ	楠	クスノキ	*常緑・冬芽	鱗芽 暖帯の潜在自然植生
24	ギイフリボク	采振木	ハラ	冬芽	鱗芽 白い襟巻
25	ウスノキ	臼の木	ツツジ	冬芽	鱗芽 緑の一年枝
26	ズミ	酢実	ハラ	冬芽	鱗芽・痕:半円~V字形
27	リョウブ	令法	リョウブ	冬芽	鱗芽→裸芽・陣笠

シダ植物のからだ

文一総合出版
「シダ」ハンドブック より



今回は 3月11日(日)

9:30~12:00

～都会の中の雑木林に
今年も春がやってきた～

お天気が良ければ 久しぶりに
午後の部あり 参加希望者は
お昼持参でお越し下さい

連絡先(古川)

tell/fax : 052-821-6463

ケイイ : 080-5124-6463

e-mail : viva_forest@yahoo.co.jp

ホームページ : ラブリーアース → 検索

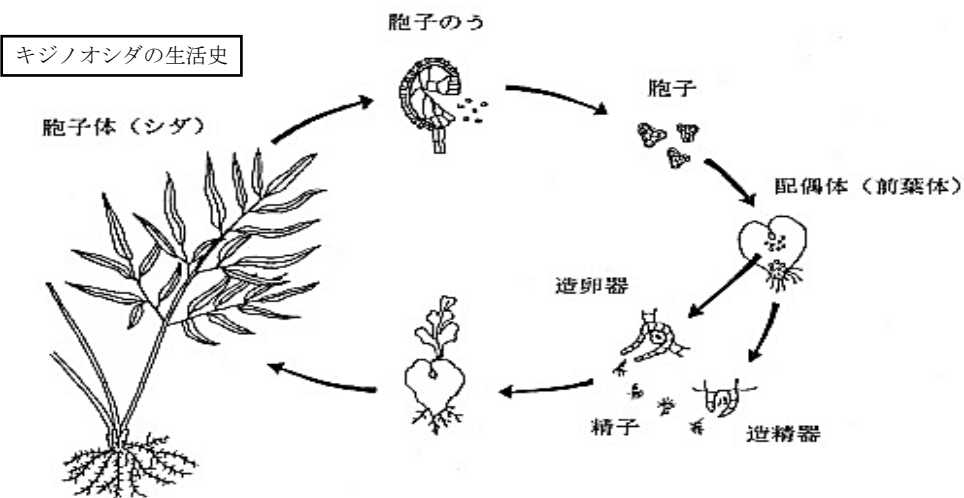
冬は羊歯を観察しよう(1)

シダの最大の特徴は、種子ではなく胞子で増えることです。そのため、花はつけないで、胞子葉と呼ばれる胞子をつける専門の葉ができます。胞子が見つからない葉を栄養葉といいます。

胞子はミクロン単位の小ささでごく軽いことから、移動能力は抜群で、風さえあれば、どこまででも飛んでいきます。しかし、胞子が地上に落ちれば、どこでも発芽できるわけではありません。

胞子から芽ばえるのは前葉体(ぜんようたい)という、湿度を好み直射日光を嫌う成長段階だからです。

一般的にシダ類が陰湿地に多い理由は、ここに 있습니다。



この前葉体は、日陰の湿った岩のすき間で普通に見ることができます。大きさは数ミリで、緑色のハート形をしています。ルーペでよく観ると、半透明の細胞膜が美しく、ちょっと感動します。一度、前葉体探しに挑戦してみてください。

この移動能力の高さが、地球温暖化に伴う勢力拡大の大きな力になっています。今まで冬の寒さで年越しできなかった南方系のシダが少しずつ増え始めています。特にシロヤマシダ類やハチジョウシダ類で、その傾向が顕著です。

近々、リュウビンタイやコウモリシダといった、姿を見ると感動するシダたちが、愛知県でも見られるようになるかもしれません。

冬は羊歯を観察しよう(2)

私たちとシダ類とのつきあいは、古くて深いものがあります。

最も古いつきあいは、石炭です。新生代の針葉樹が石炭化した日本は別として、ヨーロッパ産を始め多くの石炭が、古生代石炭期の木生のシダ類の遺体が変化したものです。昔、地学で習ったロボク・リンボク・フウインボクと呼ばれる直径80cm以上、高さ20m以上に達する巨大なシダたちの化石なのです。

これらのシダの直系の子孫が、現在あるトクサ・ヒカゲノカズラ・スギナたちです。

3億年の時間経過と気象変動などにより、こんなに小さくなってしまったものの、今も私たちの近くで生き続けているなんて！本当にすごいです。

他にも、ゼンマイ・ワラビ・ツクシ・クサソテツ・オオタニワタリなどは食用になりますし、正月の飾り餅の下にはウラジロ(団地サイズではコシダで代用)を使います。

イワヒバやマツバラは江戸時代からの園芸植物として有名で、大名や豪商など大金持ちが奇型品や変型品を競って集めたことがありました。今でも、マニア間で高値で売られています。

近年は温室の普及とともに、アジアンダムやオオタニワタリなどの熱帯性シダの栽培も盛んになってきました。

花が咲かず地味なため、植物好きの人からも無視されがちな羊歯ですが、花がほとんど見られない冬こそ、身近なのに縁遠い彼らに注目して下さい。

